

R6(2024)年 共通テスト本試 『詩林広記』 『考古編』

次の文章は、唐の杜牧（八〇三―八五二）の【詩】「華清宮」とそれに関連する【資料】I～IVである。

【詩】

華清宮

華清宮（唐の都長安の郊外にある、驪山の温泉地に造営された離宮）。

ヨリ

スレバシラ

ス

ヨ

長安 回望 繡成 堆

長安から振り返って遠方を望めば、

（驪山は）

綾絹を重ねたている（ように美しい）

ノ

山頂 千門 次第 開

ニ

ク

山頂にある華清宮の多数の門が、次々と順々に開いていく。

こう ぢん

一騎 紅塵 妃子 笑

フ

ある騎馬が砂煙（を上げ疾走して来る）。（それを見て皇帝玄宗の妃である）楊貴妃は笑う。

シ ノ ル コレ れい しノ タルヲ

無三人 知是 荔枝 来。

人々はこれがライチを届けに来た（騎馬である）のだと知らない。

【資料】

ニイフ

I 『天宝遺事』云、

たしなム

「貴妃嗜

ヲ

荔枝

ふうしう

当時涪州

『天宝遺事』に記されていることには、

「楊貴妃はライチを好物とする」。

当時、涪州は

スニ ヲ テシ ヲ

致し貢以二馬遞、

貢物を届けるにあたって（本来は公文書を運ぶ）早馬の中継による緊急輸送で

ちさいスルコト

ニシテ

ル

ニ

馳載 七日七夜 至京。

運ぶこと、七日七夜（休まず）走らせて、都に到着する。

クたふレ

人馬多斃

ニ

於路

ニ

ア百姓苦

シムト

レ之。

ニ

人も馬もたくさん道に野垂れ死に、民衆はこれに苦しむ」と。

Ⅱ 『**畳山詩話**』云、「**明皇致遠物**、
『**畳山詩話**』に記されていることには、「**玄宗は遠くのもの**を届けさせ、

テよろこバシム
以悦 二婦人一。
それによつて妻を喜ばせる。

窮**二人力一絶** 二人命一、有**レ所レ不レ顧**。」
人力を尽き果てさせ、人の命を犠牲にしても、気遣わないところ（≠傾向）がある」と。

とんさいかんらん ニフ
Ⅲ 『**遜齋閑覧**』云、「**杜牧華清宮詩**尤
『**遜齋閑覧**』に記されていることには、「**杜牧の華清宮の詩**は甚だしく

くわい しゃス
膾炙人口。扱**二唐紀**、
唐の時代についての歴史記録によると、
広く知れ渡っている。

明皇以**二十月** 二幸**二驪山**一、至**レ春**即還**レ宮**。
玄宗は十月に 驪山に行幸し、 春になつてすぐに皇宮に帰る。

是**未** 三嘗**六月**在**二驪山**一也。
したがつて、これまで一度も六月には驪山にいない。

ルニ ハ ニシテはジメテ スト
然**荔枝盛暑** 方**熟**。」
それなのに、ライチは夏の一番暑い時期になつて初めて熟す」と。

Ⅳ 『**甘沢謡**』曰、「**天宝十四年六月一日**、
『**甘沢謡**』に記されていることには、「**天宝十四年六月一日**」

貴妃誕辰、**駕幸** 二驪山一。
楊貴妃の誕生日があり、皇帝の乗り物が驪山に（行幸で）入る。

命**二小部音声** 一奏**二樂長生殿**一、
宮廷の少年歌舞音楽隊に命令して、音楽を長生殿（という華清宮の建物の一つ）で演奏させ

進**二新曲**一、未**レ有** 名。
新しい楽曲を進呈させるけれども、まだ（その楽曲の）名前は無い。

会**南海献** 二荔枝一、**因** 名 二荔枝香一。
たまたま南海郡がライチを献上し、そのために、（新曲は）「荔枝香」と名付けられた」と。

